

今日の説教のポイント <ルカによる福音書2章22～38節>

①律法、戒め、掟（おきて）という言葉をも嫌いしない！

この箇所は、イエス様が旧約聖書の律法に従うことを大切に家庭で育てられたことをよく示しています。イエス様も、「私が来たのは律法や預言者を廃止するためではなく、完成するためである」（マタイ5:17）と言われました。旧約聖書の人々が「律法、戒め、掟（おきて）」という言葉を使う時、それは新約聖書の「教え」という言葉と道義なのです。このことを知ると、「律法や戒めという言葉は嫌い」などと簡単には言わなくなると思います。が、同時に、新約聖書のイエス様から学んだ私たちが、律法とか戒めとか、周りの人にはよく分からない言葉をあえて使う必要もありません。「神様、イエス様の教えに聞き従って生きていきます」、それでいいと思います。あとは、その幸いの従いを私たちがどれだけ喜びながら伝えて行けるかです。

②これが祝福？ シメオンがマリアとヨセフに伝えた内容！

シメオンは神様の約束のしるしであるイエス様に会って喜びに包まれて神様を賛美します。しかし、その後マリアに語った言葉はとも「祝福」（34）とは思えないものでした。「この子はイスラエルの多くの人を倒したり立ち上がらせたりするために定められ、また、反対を受けるしるしとして定められています」。これだけ聞くとぎょっとし、「よくこんなことを、生まれたての赤ちゃんを抱くマリアさんに向かって言ったな、本当かな？」と思うでしょう。しかしそう思うのは、ただこの言葉だけを思い巡らしたに過ぎないからです。

見逃しがちですが、マリアとヨセフが何をしに神殿に行ったのかを考えなければなりません。「その子を主にささげるため」（22）です。しかも実際には、律法に従ってイエス様に代わる犠牲を供えました（24）。旧約聖書の神様がそのような方法を設けて下さったからです！ここはシメオンの言葉を読んで、ただ「ひどいことを言うな」とだけ考えてすませるような箇所ではないのです！ 私たちの罪が赦されるためにイエス様が犠牲となって下さったあの十字架の出来事を思い巡らさなければならぬのです。神様がどんな者をも受け入れるために設けて下さった、驚きの恵みに満ちた方法についてです！